

第 7 回 富士見市文化芸術振興委員会議事録

日 時	平成30年10月22日（月） 18：30～20：15						
会 場	鶴瀬コミュニティセンター 第3集会室						
出 席 者	加藤	氣賀澤	高野	上川	吉川	野村	岡島
	○	欠	○	○	○	○	○
	水野	肥田	関（知）	田中	長坂	関（仁）	渡邊
	○	○	欠	○	欠	○	○
	事務局：地域文化振興課 中嶋課長、佐藤、武井						
1	開 会						
2	委員長挨拶 加藤委員長						
3	議 事						
	協議事項については下記のとおり。						
	(1) 前回までの見直し内容の確認について						
	事務局より、前回までの会議で確認した、基本目標1、2に紐づく取り組みの方向の修正内容を確認し、修正内容については承認された。						
	委員) 全体の話で、公民館やコミュニティセンターなど施設の名称は違うが、どこもやっている内容は同じだと思う。名称を分ける意味があるのか。						
	事務局) それぞれの施設の設置目的が異なるが、文化芸術事業に関しては、本計画を通して公平に支援していくということから、それぞれ記載している。						
	委員) 法律の改正等により、公共施設の設置方法等が大きく変わってきた。それに伴い、市としても、様々な設置方法をとったのではないか。						
	委員) 事務局の指摘のとおり、公民館と交流センター、コミュニティセンターとは設置の目的が違う。公民館は、生涯学習の場であるが、交流センター・コミュニティセンターは、市民の自主学習の場である。今回の計画の見直しでいえば、設置目的が異なっても、施設で行われる文化芸術活動を支援するという事は変わらない。						
	(2) 計画本文の見直し案について						
	■基本目標1 育む						
	・施策の柱①について						
	委員) 今後、民間事業者の文化芸術施設の設置の可能性はないのか。						
	事務局) 今後5年間でそのような予定は特段聞いていない。しかし、そういった可能性はあると思うので、基本目標2の多様な文化との連携などの関連しそうなところで追記できないか、検討していく。						
	・施策の柱④について						
	委員) 郷土芸能の担い手の高齢化は深刻な問題である。計画の修正でこのような問題は解決するのか。						

事務局) ご指摘の問題については、市としても認識しており、郷土芸能の担い手の発掘は重要だと考えている。まずは若い人に知ってもらうことが大切なので、市としては、発表の場の提供や、地域で郷土芸能をも盛り上げるような方策を引き続き進めていくことが問題の解決に繋がると考えている。

・施策の柱⑤について

委員) キラリ☆ふじみの自主事業については、振興委員のみなさんにも席を用意するなど、まずは委員の方がキラリ☆ふじみがどんな事業をやっているのか理解する必要があるのではないかと。

事務局) ご指摘についてはもっともだと感じているが、チケットの手配に関しては、事務局だけでは判断できないため、持ち帰り検討したい。

委員) 委員についてもそうだが。キラリ☆ふじみが何をやっているかわからないのは、全体的に市のPR不足ではないか。

事務局) PR不足については、職員も感じているところで、様々な手法を取り入れたり、キラリ☆ふじみも他の劇場へチラシを配布したり、ダイレクトメールの発送をしたりしている。しかし、まだまだ全体に情報が届いているかと言われれば、そうではないと思うので、引き続きキラリ☆ふじみだけではなく、市全体の課題として取り組みたい。

(4) その他

事務局より、下記2点を説明。

- ・生涯学習市民推進懇談会について説明。振興委員会からは、上川委員を推薦者にすることとして決定。
- ・12月13日(木)の鼓童の公演について案内。

4 閉会 加藤委員長